

プロジェクト開発研究領域

1 カンボジア王立農業大学(RUA)の 教育研究強化に対する協力・研究活動

20年以上にわたる内戦を経て、極度の貧困状態に陥ったカンボジアの農家は、現在も農業生産性と所得の低さに悩まされています。これに対して同国の農業大学には、貧困削減と経済開発のためにも、自国の農業や農家の実状・問題点を踏まえた調査・研究、技術の開発・改良、人材育成の積極的な展開が求められています。しかし、1970年代のポルポト政権下におけるジェノサイドと社会破壊による人材不足は深刻であり、自国の農業に関する問題点を見出し、解決策を示していくべき農業大学は、その役割を果たせていません。ICCAEは2000年よりカンボジア王立農業大学の教育研究強化を支援し、大学院修士課程(2002年)、大学院博士課程(2006年)の設立が実現されました。さらに、2008年に同大学と名古屋大学生命農学研究科との間に締結された学術交流協定に基づいて、両大学の学生によるカンボジアの農村を通じた現場での実践に基づいた研究・教育に重点を置いた両大学の人材育成を行っています。

2 カンボジアにおける市場ニーズにあった 農産物加工産業振興による農村開発モデルの構築

カンボジアは、長い内戦の後によりやく自給を達成しましたが、自国での加工品産業が未発達であるため、国内で消費されている加工品の殆どを隣国からの輸入に依存しています。しかし今後は、貧困削減や経済開発に向けて市場指向型の農産物や加工品の生産に力を注ぐ必要があります。



日本人専門科による酒造農家への技術指導

本研究は、カンボジア王立農業大学(RUA)と協力し、現地の農家と一緒に農産物加工品の開発・品質向上の実践を行うことで農民の生活向上を目指す農村開発モデルの構築を目指しています。2008年度からは、科学研究費補助金により、カンボジアの伝統的な米焼酎を農産物加工品の一例として、消費者ニーズの把握、品質の向上、包装方法の改善、商品化、販路の開発を行い、2010年現在、カンボジア国内での流通が始まっています。文部科学省国際協力イニシアティブ事業を通じて、この取り組みをRUAの人材育成や近隣諸国へのモデルの発信・普及を行っています。

3 ネパールの森林保全における家畜糞尿を用いた バイオガス導入の効果に関する実証研究

本研究は、ネパールを事例として取り上げ、森林保全の取り組みにおける家庭用バイオガスシステム導入の効果とその課題を明らかにすることを目的としています。多くの開発途上国では、日々の煮炊きに使う薪炭材の採取が森林減少の一要因として挙げられています。家畜糞尿を用いたバイオガスは、薪炭材の代替品として、森林保全に取り組むNGOや国際機関の支援を通じて多くの開発途上国において急速に導入が進められていますが、薪炭材利用量の削減という効果以外は明確になっていません。本研究では、バイオガスの導入から20年近く経過しているネパールの丘陵地において、バイオガスの導入が薪炭材利用量だけでなく、森林植生、地域住民の生計活動、森林管理体制などに対する正負の影響について、定量的・定性的な実態調査に基づいた分析を行っています。この結果に基づき、国際協力事業として実施されているバイオガスシステムの導入への提言が期待されます。



荒廃するネパールの森林

開発途上国における基礎的・実践的研究を現地の農業大学や研究機関との共同実施を通じて、農業分野における教育協力のあり方や新たな支援方法について開発・提言することを目指しています。

世界に多発する牛の 疾患の病因解明と治療法の開発 4



卵巣嚢腫は、肉牛や乳用牛に多発する疾患で、繁殖機能を阻害し、生産性を著しく低下させることが世界的な問題となっています。われわれは生物系特定産業技術研究支援センターによるサポートを受け、タイのカセサート大学との共同研究により、タイの屠畜場における臓器サンプリングと屠殺個体の臨床データにより、本疾患の病因解明を進めています。この共同研究を通じ、途上国における畜産物の効率的生産とその治療に活躍する人材の育成を目指しています。

熱帯あるいは亜熱帯で飼養されているゼブ牛においても、生殖系の疾患は多発し、生産効率を低下させており、世界的な問題である。

E-Learningによるアジア地域の大学間教育連携 5

本計画は、e-learningにより、アジア地域における遠隔教育システムを構築し、大学における人的資源の相互活用を促進し、学生に対し、よりよい教育を受ける機会を与えようとするものです。名古屋大学では2010年度から、オープンソースのcourse management systemであるSAKAIを正式に採用し、学内における運用を始めました。このシステムは世界的に使われており、その利点を生かし、大学間で相互利用できる遠隔教育コースを増やしていこうと考えています。

現在は、タイのカセサート大学を中心とした2大学間での授業の共同開発を開始しました。徐々にコース数を増やし、ニーズの高まりつつあるダブルディグリーのプログラムなどの補助手段として活用されることを期待しています。



名古屋大学情報基盤研究センターにおいて、講師の説明を注視して聴く受講者たち